

令和4年度第3回鹿児島県男女共同参画審議会専門部会の会議結果の概要

開催日時	令和4年10月5日(水)午後1時半から午後3時半まで
開催場所	県庁文化振興課内A会議室
出席委員	武隈 晃, たもつ ゆかり, 藤原 奈美 (計3人)
問い合わせ先	男女共同参画局 男女共同参画室 (直通電話: 099-286-2634)
議事	<p>1 「第4次鹿児島県男女共同参画基本計画」の素案作成及び数値目標設定に当たっての考え方について</p>
会議の概要	<p>1 「第4次鹿児島県男女共同参画基本計画」の素案作成及び数値目標設定に当たっての考え方について</p> <p>第4次計画の素案等について事務局から説明を行い、委員から意見を伺った。</p> <p>委員からの意見については事務局において整理し、11月14日(月)に予定している審議会で第4次計画の素案について諮ることとなった。</p> <p>委員からの主な意見は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4次計画の体系図については、一番上に「目指す姿」、次に県男女共同参画推進条例に掲げている「基本理念」、その下に「重点目標」を配置するのが適当ではないか。 事務局案では、「目指す姿」を「男女共同参画社会の実現を通して目指す姿」と表記しているが、実現に至るまでの過程を含める観点から、「実現」ではなく「形成」を用い、「男女共同参画社会の形成を通して目指す姿」としてはどうか。 推進体制に、地域振興局・支庁との連携も盛り込む必要がある。 昨年度実施した県民意識調査において、「男女共同参画社会を形成していくために、県が今後力を入れるべきこと」として、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」が最も多い回答となっている。問題解決の重要な拠点、舞台となっているという意味で、推進体制に「学校」も入れてはどうか。 国では近年、「女性活躍・男女共同参画の重点方針(いわゆる「女性版骨太の方針」)2022」等でジェンダー統計のことを取り上げ、推進しているため、第4次計画にもジェンダー統計を盛り込んでどうか。 今後は「女性の起業」のニーズが高くなると考えられる。これまでの計画では、女性の就労支援の中で、能力開発や再就職支援等と同じ括りの中で取り扱ってきたが、第4次計画では、「女性の起業への支援」を具体的施策として独立させてはどうか。 子育て・介護の「人材の育成・確保」について、介護の人材に外国人材は必要不可欠であるため、第4次計画にも盛り込む必要がある。また、外国人材については、多様性の尊重や男女共同参画の視点に立った対応が必要である。 生理の貧困について、事務局案の「現状と課題」には記載があるが、「施策の方向」や「具体的施策」に記載がないため、そちらにも記載する必要がある。 子ども・若者支援に関しても、ジェンダーの視点が必要である。